

平成30年12月7日、政策秘書課職員との話です。

思いどおりにならないこと

今から30年ほど前、私が老人ホームを始めた頃、老人ホームを抜け出し、徘徊を繰り返す認知症の方がいらっしゃいました。

いつも大島^{おおしまつむぎ} 紬を粹に着てみえたので、はた目からは認知症と分かりません。なので、その方が「ごめんよ。扉を開けてくれるかい？」と言えば、認知症だと知らない人が扉を開けてくれたのです。

目を離すと、すぐにどこかへ行ってしまわれるため、私はいつも、その方と一緒に行動していました。その頃の私は、老人ホームを始めたばかりで、その方にいつも愚痴や悩みを聞いてもらっていました。認知症なので、私の話をすぐに忘れてくれました。私は、話を聞いてくれる人がいることに救われていました。

いつものように愚痴をこぼしていたら、突然、私にこうおっしゃいました。「兄ちゃん、自分のことでも思うようにならないのに、ましてや人は思うようにならない。そう、気を病んじゃいかんよ」

そう言われて、「そうか、人は思うようにならないんだ」と思ったら、スーッと気持ちが楽になったのを覚えています。

その後、私は、思いどおりにならないことを表す「不如意^{ふにょい}」という言葉を知り、思うようにならないことがあると、「不如意」「不如意」と自分に言い聞かせていました。

何でも自分の思いどおりになるはずがないのに、私たちは、「何でも自分の思いどおりになる」と勘違いしてしまっていないでしょうか。その勘違いから、他人に対して、理詰めで厳しくなり、不寛容な社会を作り上げているように思えてなりません。

今年は、台風や地震など、自然災害が多い一年でした。自然は、決して自分の思いどおりにはなりません。人間も自然です。特に子どもは、自然そのものですので、大人の思いどおりにはなりません。それを何とか、大人の意のままにしようとすることで、今、虐待、親殺し等いろいろなひずみが生じているように感じます。

寛容さは、自分の思いどおりにならないことを受け入れることから、身に付けることができるのだと思います。それは、自然や子どもと接することで、学ぶことができるのです。



～市長の話を聞いて～

特に思い通りにならないことが、家族に関連することだと、ついついその家族に対してキツイ言葉、態度になりがちです。認知症の場合だとキツイ言葉を掛けられることで、症状が悪化する事例もあるようです。現在、私の両親は幸いなことに元気ですが、今から親が認知症になったときに備えて、思い通りにならないことでも、「そんなこともあるよね」と受け入れる、もしくは受け流す練習をしていきたいと思います。